

平成25年度森林総合研究所四国支所研究評議会報告

外部の有識者から四国支所の研究活動や業務運営に関して意見をいただき、今後の活動に反映させていくために開催しているものです。

日時：平成26年 2月21日（金） 13：00～16：30

場所：森林総合研究所四国支所 会議室

1. 評議会委員及びオブザーバー（敬称略：50音順）

評議委員

石川 妙子	NPO法人環境の杜こうち副理事長
田中 壯太	国立大学法人高知大学教育研究部 教授（公務のため欠席）
増田 清	愛媛県林業経営者

オブザーバー

佐賀 賢二	四国森林管理局森林整備部 指導普及課長
今西 隆男	高知県立森林技術センター 所長

2. 議事次第

- 1) 開会挨拶
- 2) 出席者紹介
- 3) 平成25年度研究活動等の概要説明
- 4) 研究の実施状況と成果
- 5) 業務運営等に関する意見交換
- 6) 講 評
- 7) まとめ
- 8) 閉会挨拶

3. 委員及びオブザーバーの意見・指摘事項と対応方針

項目	意見・指摘事項等	対応方針等
研究推進につ	・（評議委員） 「Bスタイル」プロジェクトは、非常によい取り組みだったと思うが、今後も四国内の他の地域において同様の研究を実施する予定はあるのか。	・「Bスタイル」プロジェクト（平成25年9月終了）の継続課題は、現時点では計画されていない。しかしながら、得られた知見等は他の地域における循環型社会構築を目指す取り組みに寄与することを目的にパンフレット及び書籍の作成・普及を計画している。
	・（オブザーバー） 林地残材については、国としても回収から利活用までのシステムを関係者による学習会等も含め検討しなければならないと	・「Bスタイル」プロジェクトにおいても中間土場設置による集約化及び薪ボイラーが林地残材の利活用には有効な手法であることを示している。また、森林総研全体としても、「木質バイオマスエネルギー事業の評価システム

い	考えている。森林総研においてもこの分野の研究を進めていただきたい。	の開発」に取り組んでおり、今後も更なる研究推進に務めたい。
て	・（オブザーバー） 今後は四国でも皆伐施業が増加すると思われる。コンテナ苗を利用した低コスト再造林を四国で取り組むうえにおいて、どのような課題があるか。	・最も重要かつ緊急的な課題はやはり「シカ被害対策」である。防護策等の設置もだが、今後は捕獲に重点をおいた対策へシフトしていかなければならないと考えている。四国支所においても、来年度から「二ホンジカ生息地におけるスギ・ヒノキ再造林手法の開発」（交付金プロジェクト：研究期間：H26～H28）に取り組むととなった。
	・（評議委員） 森林の多様性と川の中で生息する生物等の多様性との関連についてなど、川上から川下、最終的には海まで繋がる研究にも取り組んでいただきたい。	・ご要望のあった件については、流動的な部分もあるが、森林総研、農業環境研究所、中央水研が共同して、山から海までを対象とした物質循環、生物多様性等を調査・研究・評価する研究プロジェクトが進みつつある。今後の進捗状況に期待したい。
	・（評議委員） 今後は皆伐施業が増加するが、皆伐後の生物多様性の評価、また経営的にも持続可能な森林を将来に向けてどのように作っていくかを考えながら今後も研究に取り組んでいただきたい。	・ご要望のあった件については、四国支所内でも様々な観点から議論されており、十分認識している。今後もそれらを念頭において研究に取り組みたい。
そ の 他	・（評議委員） 公開講演会（シンポジウム）は、研究所の成果等を広報・普及するためには重要な取り組みであるが、新聞等マスコミへの働きかけは実施しているか。	・四国支所で実施するイベント等の開催案内は、主催あるいは後援等を含め全て県政記者クラブへのプレスリリース（投げ込み）を実施しているが、紙面の都合等により、掲載されない場合もある。また、開催案内はイベントの内容に合わせ、関連機関等へも送付している。
の 意 見	・（評議委員） 地域及び地域林業を活性化させるうえでも森林組合、第3セクター等の林業事業体の育成研究並びに同事業体職員への研修等についても積極的に実践していただきたい。	・2020年までに木材自給率を50%にするためにも林業事業体の育成は重要であると考えている。しかし、各種規制、担い手の問題等四国支所あるいは森林総研だけでは解決できない課題も多いため、県林試等関連組織のご協力・ご支援を賜りながら取り組みたい。